



プロジェクト課題No.3

次代を担う生産者の育成による 梨産地活性化

写真：R4.8月上旬 大槻町M農園

活動期間：令和5年度～令和7年度

対象者：JA仙台利府梨部会 部会員4人（同部会員61人）

チーム員：高橋真紀、守屋明良、高橋晋太郎

1 課題の背景・ねらい

〈背景・ねらい〉

- JA仙台利府梨部会員は61人、面積は約20ha。園主の高齢化等により、部会員と面積いずれも減少傾向。
- 支援対象者の4名は、新技術・省力化技術等への関心が高く、重要な担い手として育成することにより産地の活性化に貢献できる。
- 当地域で設立される果樹産地協議会を通じ、果樹経営支援対策事業(国)の活用支援も期待されている。

【令和5年度 定性的目標】

- 基礎的な技術の習得と新技術・新品種への理解が深まる。
- 担い手の交流活動が促進される。
- 産地活性化に向けた計画が策定される。

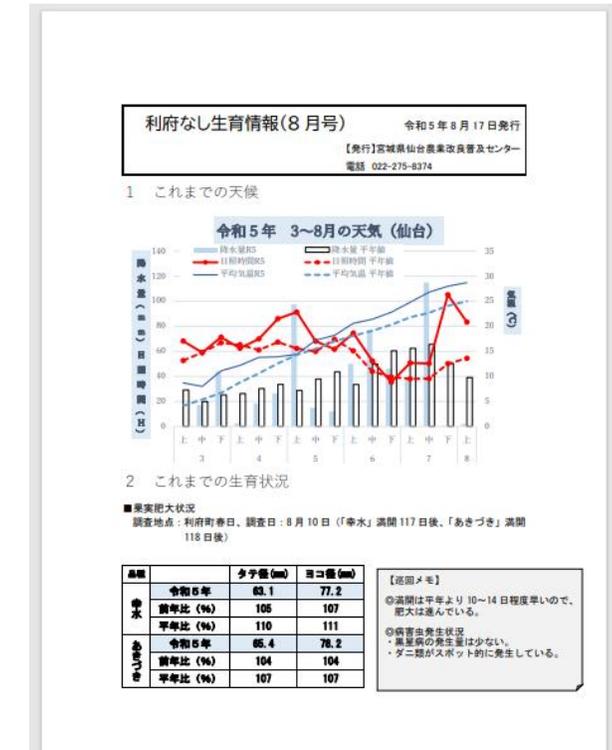
2 活動内容

(1) 安定生産・高度品質化技術の理解促進

①省力化・新技術導入

②技術情報資料発行

目的	期待される効果	内容(技術)
防鳥作業の省力化	作業者への安全・省力化・低コスト化 (一度設置すれば10年そのまま)	防鳥ワイヤーの設置
収穫時期前進	「あきづき」の収穫期前進 果実肥大促進	ジベレリンペースト処理



そのほか、「新品種の導入」「天敵利用」「コンシューマー利用」などの項目がある

2 活動内容

(1) 安定生産・高度品質化技術の理解促進

③ 栽培講習会・巡回指導

現地検討会 7月



病害相談等 4～8月



2 活動内容

(2) 担い手の交流活動の促進 勉強会（病害虫）、産地視察



若手生産者で千葉県船橋市にある（株）第一肥糧の工場を見学（小ロットの完全オーダーメイドの有機質肥料を作ってくれる）

(3) 産地活性化に向けた計画策定支援



利府町農林水産課、J A 仙台と打合せ

3 これまでの活動成果

(1) 安定生産・高度品化技術の理解促進



防鳥ワイヤー設置の様子

(他産業では防鳥ワイヤーの使用実績あるが、農業分野では初) 定点カメラ設置による効果判定
→今のところ被害なし



ジベレリンペースト処理を行った「あきづき」
→順調に生育・肥大している。

3 これまでの活動成果

(2) 担い手の交流活動の促進

- ・肥培管理について、若手からぜひ開催してほしいとの要望。
→10月 土壌分析・施肥設計支援 11月 勉強会の開催(2回に分けて)を計画
- ・他産地との交流に対する意識の醸成

(3) 産地活性化に向けた計画策定支援

- ・10月20日 果樹産地協議会の設立決定
・・・事業導入のためには、「果樹産地計画」が必要→作成支援
- ・事業導入に向けて、関係機関に実際の事業運営に関する情報提供を行い、スムーズな開始を準備

4 今後の対応

(1) 安定生産・高度品質化技術の理解促進

- ・引き続き新技術導入の調査支援、効果測定を行っていく。
- ・「生育情報」で技術の効果、内容を情報発信する。

(2) 担い手の交流活動への理解促進

- ・施肥管理に関する勉強会を進める。
- ・新品種導入に向けた情報提供の発信
- ・他普及センターとの連携により、若手交流を図る

(3) 産地活性化に向けた計画策定支援

- ・事業活用者のニーズの把握
- ・産地計画（案）を作成、産地協議会のたたき台として提案